

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム松葉の家 (3ユニット合同)		
所在地	静岡県袋井市大野 2730-4		
自己評価作成日	平成24年2月6日	評価結果市町村受理日	平成24年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 gokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2276600315&SCD=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設として地域の福祉の担い手となるにはどのようにしたら良いかをずっと模索してきましたが、開設十年目を迎え少しずつですが地域での定着感を感じています。理念にも掲げる「地域の駆け込み寺になろう」の思いを職員全員が持ちまたこの思いを地域及び利用者のご家族様に発信してきた結果かと思えます。利用者様のケアについては、自己決定の支援を基本に、おいしい食事を口から食べていただくこと、排泄はトイレでできること、入浴はゆっくりと湯船に浸かっていただくこと等最も基本であることがあたりまえにできるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中にある単なる介護保険の事業所ではなく、地域福祉のよろず処のような存在になりたいと事業所は考えているという。例えば、地域住民が頼りにして今後も存続を願っているスーパーがあることを運営推進会議で知り、少しでもお役に立ちたいとの想いから食材の発注を地域スーパーに替えている。ほかにも、支援学校の実習の受入や地域のカラオケ同好会の発表の場として活用されている。美味しい食事を自分の口から食べ、入浴も義務的にならずゆっくりしてもらい、トイレですっきりしてもらうという当たり前の生活が続くことを管理者はじめ職員一同願っていて、自立ケアに取り組んでいることが利用者の朗らかな言動からも視認された。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の駆け込み寺になろう」を運営理念の一つに掲げ、自宅での介護に悩み、疲れている人たち相談場所や逃げ場所となれるように・・・という共通意識を職員はもっている	困難事例も断らず、先ずは受け入れることを方針としていて、職員にも「地域の駆け込み寺である」意識が浸透している。職員の定着率も高いためか、年を重ねて職員の想いは一つになっていると管理者は感じているという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会の行事や共同作業にも参加し、親交を深めている。また、ホームが開催する行事(夏祭りやボランティアによる発表会)には招待をし、一緒に楽しむ機会を設けている	事業所の夏祭りには総勢80名余の参加があり、親しみをもって関わってもらえていることが覗える。東日本大震災を受け、4階建てであることから「第一次避難所」として市役所を通して地域に提供している。地域の防災訓練では、弱者とともに安全を確保することを体験を通して学ぶという貴重な機会の舞台となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住人による生活ボランティアの受け入れを行っており、地域住民に認知症の理解や支援を得ている。また幼・小、中学校によるボランティアを受け入れることで子供たちにも認知症の高齢者と接する機会を提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での提案や指摘事項については職員全体に周知させ、サービスの向上のために活かしている(食事の内容や終末期についての意見など)	運営推進会議を介して地域の皆さんの習い事の発表会の場に活用してもらうこともあり、また地域清掃の日時を知るなど、地域情報を得て資源を活かすための場となっている。今後は家族の参加を増やしたいと考えていて、方策を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所の担当者にも出席をお願いし毎回ホームの実情や取り組みを、報告し、また防災課等他の部署への連絡への橋渡しも担ってもらっている	運営推進会議には毎回参加してもらっていて、次回の案内も終了後の口頭でしているほど、安心感のある関係にある。地域ボランティアの皆さんに福祉事業所で求めていることについて講話をすることも市の依頼に応え、出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者ひとり、一人に於いての拘束とは何かを正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ユニットそのものについては、玄関の施錠の解除また事務所への出入りの自由など生活空間での拘束感の軽減を図っている	事業所としては生活空間における拘束感、閉塞感を排除することに取り組んでいる。拘束排除と安全性の狭間で管理者と職員の意見がぶつかることもあるが、「利用者の安心できる暮らし」が双方、想いの根幹にあるため、ケース毎に合意形成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず項目として挙げられ、職員は常に意識し、虐待の防止は徹底している。事業所内で虐待が起きた場合には法人の関係部署への通報および取り調べのシステムができています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、は利用者個人に必要性が生じた場合は制度活用に向けて関係機関へ連絡・相談をしている。また、任意で加入している研究会などで 制度を学ぶ機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階でホームの特色を含め契約内容の説明を十分行い、また契約内容の変更の際には事前の説明会等を行なって理解・納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	献立作成時には利用者の参加を促し、希望の献立を取り入れたり、日常的に自己決定を促すよう心がけている。家族の面会時には要望を伺ったり、直接言いにくいことも意見箱を設置して意見や要望を表せる様にしている	利用者に意見を言ってもらう機会を増やそうとしていて、メニュー作成への参画は定例となっている。また、各ユニット毎に色を替えたフェルトで手作りした名札を職員はエプロンの上につけていて、利用者にも家族にも呼んでもらえるよう工夫している。隔月で「松葉の家だより」を家族に届けていて、日頃の様子を書面でも伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議が定期的開催され、職員の意見や提案を聞く機会になっている。また、アンケートなども行い職員の思いを把握するよう努めている	職員アンケートを無記名・記述なし(筆跡で特定しないように)でとり、職員が日頃言えない意見や気持ちを確認している。一職員が直接法人本部へ進言できる仕組みも整っているが、実際使う人はなく管理者に言うことが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人評価・施設評価システムがあり、個人及び施設の努力や実績が評価され、賞与に反映される		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修機会を設けたり、研修補助規程を設け、各種の研修への参加を奨励している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年一回行なわれる院内学会では、各事業所の取り組みやその成果などを発表し合いサービスの向上に役立っている。またグループ全体で開催される忘年際では事業所を越えた交流が図られている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にも何回か本人と会う機会を設け本人の思いを聞き、察し、顔なじみになれるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で入居を決心するに到るまでの思いに傾聴し、よりベストなサービスを提供できるよう、また家族の気持ちの拠り所となれる関係作りができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の主訴から、今必要な支援は何かを見極めるようにしている。他のサービス利用には至っていない		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と一緒に家事を行ったり、日課相談するなど暮らしを共にする者として接している。且つ職員は黒子の存在であることに徹するよう心がけ、本人の自立を支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居の際には、家族とホームの双方で本人を支援することを提案し、随時相談や報告を行なっていくよう心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス利用時の友人にはいつでも会えるよう支援している。また、友人に便りを出せるよう手伝いをしている	高齢に伴い在宅時からの馴染みは年々減っているが、1、2号館はデイサービスの利用者と日頃から行き来がある。3号館は全体での取り組みができにくくなっていて、船乗りだった人とは海を見に行くなど個別支援が主になっている。新聞を購読したり、編み物をするなど在宅時からの習慣を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間の一角に皆が集いお茶をしたり、歌やゲームに興じる時間を設けている また、自立度の高い方がケアの必要な方を思いやる場面を大切にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が他施設に転居後も情報を提供したり面会をして励ますようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床時間、就寝時間、入浴の意志等、生活全般において自己決定を促すよう心がけている。「自己決定の支援」を理念に掲げている	「自己決定の支援」という理念を念頭において、起床時間、就寝時間も決めてなく、それぞれの生活習慣と選択を尊重している。また、この職員なら入浴するという利用者もいて、希望に添えるよう工夫している。また、介護経過には発語を記録する欄を設け、利用者の何気ない言葉を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族や居宅支援のケアマネから情報を提供してもらい、また居宅へ伺うことでも生活環境を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報で把握に努めるが、入居直後からも本人の様子を観察・把握するよう勤めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一番重要な本人との話し合いという点ではなかなか把握しきれないことが実情としてあるが日々の表情や言葉の中から察し視把握するよう努め介護計画に反映している	カンファレンスは全職員でし、モニタリングシートへの反映及びプラン作成は各ユニットの計画作成担当者がおこなっている。作成後はケアマネージャー(管理者兼務)が見直しもしている。職員がプランの実践を日々振り返ることができるよう、介護記録は評価機能も含まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護経過に書きとめ職員間で共有し、サービス内容に取り込んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスにとらわれず社会資源を含めた多種多様なサービスを盛り込んでいきたいが充分ではない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの近くにあるコンビニエンスストアへ出掛け、買い物をしながら金銭を扱う機会を得たり、地域にある授産所に立ち会話を楽しむ・など社会との繋がりが保てるよう支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクター契約を結び、内科・外科・歯科には職員が受診支援をし、本人や家族の不安や要望を主治医に伝え適切な治療が行なわれている。受診結果は報告をしている	1名を除いて事業所の協力医に変更していて、職員が受診支援をしている。概ね月4回看護師の来訪もあり、医療連携も進めている。医療情報は、「介護経過(個人ファイル)」に記載し、情報の共有化に努めている。また、救急隊が求める情報を一つにまとめたシートも備えていて、有事にも備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は医療的な観点の気づきや心配なことを書きとめ、看護師に伝えまた指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を伝え、治療を行なう上で配慮をお願いしたり、できるだけ入院先に足を運び担当看護師から情報を得ることで退院に向けての準備をしている。また、相談員には入院の際にホームの利用者であることを伝えあいさつをする		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えた折には、家族・主治医とホームとで現状の把握と今後の生活の方針を事業所のでき得るケアを伝えながら決めていき、支援体制を整えていく	医療に関しては隣接行為しか許されていない福祉事業所にあつて不安な点もあり、訪問看護や併設のデイサービスの看護師の助けを借りて、勉強会を開催している。家族、医療の協力が得られれば看取りには取り組みたいと考えている。	これまでの勉強会を礎にさらに職員教育や書面整備を進めることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される救急処置法の講義に参加したり、応急処置法に関しては看護師の教えを仰いだりし、実践に役立てるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練実施日には地域住民の協力を得、避難誘導訓練を行なっている。また事業所の訓練は月一回行い、職員全員が対応に慣れるよう取り組んでいる。	地域の第一次避難所となっていて、地域の防災訓練では住民の避難を受入れている。また、車椅子の利用者を屋上にあげることなどを手伝ってもらい、訓練において初めて協働関係を築くことができた。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの「その人らしさ」を大切に、その人に合った言葉使い、対応を心がけている	「敬語はよそよそすぎる」という意見の職員もいて、プロ意識をもって敬意を表せるよう「です」「ます」を遣うことを意識する強化月間を施行している。全面的な意識改革は得られないものの、職員によっては変化がみられるという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自己決定の支援」を理念に掲げ、生活全般を自己決定を基本に支援するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先をするのではなく、一人ひとりへの支援のために業務があることを認識し、本人の希望や訴えを優先するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時には、希望のヘアスタイルを聞いたり、外出の際には化粧を施したり、洋服選びを手伝うなどの支援をしている また、整容の際には必ず鏡に映し、きれいになることへの喜びを感じるよう支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い食事に対する満足度を把握し、希望の献立を取り入れている。 調理の準備段階やかたづけにさんかできるような配慮をしている	食事は手作りで彩りの配慮もあり、それぞれの皿に職員の想いがこもっているようだった。魚屋さんが届けてくれる際には利用者に受け取ってもらい、社会参加の機会を作っている。ホットプレートを使ったりして、参画型のおやつも提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分及び食事摂取量をチェックし、適量が確保できているかを確認している。 また、きざみやミキサー・とろみ等、本人に合った食事形態を見極め対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時後、口腔ケアを行なっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入することで本人の排泄パターンを把握するよう努め、トイレ誘導等に活かしている。また「排泄はトイレで・・・」を方針とし取り組んでいる	排泄意とは別かも知れないが、定期的にトイレに行くことが習慣となっている。尿意がなくても座ることで腹圧がかかりトイレでできる可能性があるため、今後も取り組んでいきたいと考えている。トイレの中には備品を極力置かないようにしていることも視認した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が滞る悪影響を常に認識し、チェック表から排便の有無を確認し、定期排便があるよう気を配っている。日頃から水分量の少ない方への水分摂取量の確保に対しての工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は月～土曜日に行っており、入りたい日に入れるように考慮している。また、友人と楽しく入りたい方、個欲を希望する方等希望に応じているが時間帯は午後2時～3時半になっており夜間にできないのが残念である	シャワー浴はできるだけ避け、ゆっくり湯に浸かってもらうことを旨としている。日曜日以外は希望に応ずることができるが、安全面の確保から時間は午後のみとなっている。友人同士で入るのを楽しみにしている人たちもいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッド使用の方布団使用の方等生活習慣を配慮している。また使用し慣れた寝具を持ち込んでいただき安眠を促すようにしている。日中の過ごし方として、昼寝を取り入れたり居間のソファで横になったり思い思いの休息を支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医への受診の際には薬についての説明を受け、薬剤師には服薬時の注意事項等の説明を受けている。薬についての気づきや疑問にはその都度連絡をし、指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	きれい好きな方には掃除を手伝っていただいたり・・・生活歴を顧慮した生活を支援している。またデイルームに出掛け、デイサービスの利用者との交流をするなど気分変換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やデイルームへでかけたたり、買い物への支援を行なっている	散歩のほかにも火曜日に食材の買い出しに行くことを決めていて、利用者も心待ちにしているという。外食も全員でできなくなってから途絶えていたが、今後は個別で取り組めるよう検討している。春の花見、秋の紅葉狩りのほか、思い立ってドライブに行くこともある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理をしてきた生活歴を持つ方には家族と相談をし、所持及び支払いを支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話を無料で使用でき、いつでも使用できるようにしている また友人に手紙を書く方もおり、投函の手伝いもしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の入り口には表札を掲げている。居間にはテレビ、ソファが設置してありくつろげる空間があり、観葉植物の色あざやかさに癒しを感じ、花瓶には四季を感じる花を生けている	季節の変化がわかる行事掲示があり、ソファも置かれ、過ごしやすい空間にしようとする姿勢が覗える。温湿度計もあり、換気も朝と掃除のときに行っている。生け花は散歩で採取したり、職員が家の庭からもってきたもので、生活を楽しむ習慣があることが受け止められた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間には食卓やソファが設置してあり、椅子に一人で座ったり、皆でソファでくつろいだりと、思い思いに過ごせるように工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への家具等の持ち込みは自由であり家庭での環境をそのまま再現していただくよう家具の配置等を家族と相談し、居心地よく生活が送れるように工夫をしている	家庭から馴染みのものを持ち込むほか、生活するなかで家族と相談し買い足していることも真新しい備品から覗えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわかるように顔写真を掲示したり浴場、トイレなどの案内が貼られている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の駆け込み寺になろう」を運営理念の一つに掲げ、自宅での介護に悩み、疲れている人たち相談場所や逃げ場所となるように・・・という共通意識を職員はもっている	困難事例も断らず、まずは受け入れることを方針としていて、職員にも「地域の駆け込み寺である」意識が浸透している。職員の定着率も高いためか、年を重ねて職員の想いは一つになっていると管理者は感じているという。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会の行事や共同作業にも参加し、親交を深めている。また、ホーム が開催する行事(夏祭りやボランティアによる 発表会)には招待をし、一緒に楽しむ機会を 設けている	事業所の夏祭りには総勢80名余の参加があり、親しみをもって関わってもらえていることが覗える。東日本大震災を受け、4階建てであることから「第一次避難所」として市役所を通して地域に提供している。地域の防災訓練では、弱者とともに安全を確保することを体験を通して学ぶという貴重な機会の舞台となった。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住人による生活ボランティアの受け入れを行っており、地域住民に認知症の理解や 支援を得ている。また幼・小、中学校によるボランティアを受けいることで、子供たちにも認知症の高齢者と接する機会を提供してい	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での提案や指摘事項については職員全体に周知させ、サービスの向上のために活かしている(食事の内容や終末期についての意見など)	運営推進会議を介して地域の皆さんの習い事の発表会の場に活用してもらうこともあり、また地域清掃の日時を知るなど、地域情報を得て資源を活かすための場となっている。今後は家族の参加を増やしたいと考えていて、方策を検討している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所の担当者にも出席 をお願いし毎回ホームの実情や取り組みを、報告した。防災課等他の部署への連絡への橋渡しも担ってもらっている	運営推進会議には毎回参加してもらっていて、次回の案内も終了後の口頭でしているほど、安心感のある関係にある。地域ボランティアの皆さんに福祉事業所で求めていることについて講話をすることも市の依頼に応え、出向している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者ひとり、一人に於いての拘束とは何か を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ユニットそのものについては、玄関の施錠の解除また事務所への出入りの自由など生活空間での拘束感の軽減を図っている	事業所としては生活空間における拘束感、閉塞感を排除することに取り組んでいる。拘束排除と安全性の狭間で管理者と職員の意見がぶつかることもあるが、「利用者の安心できる暮らし」が双方、想いの根幹にあるため、ケース毎に合意形成している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず 項目として挙げられ、職員は常に意識し、虐待の防止は徹底している。事業所内で虐待が起きた場合には法人の関係部署への通報および取り調べのシステムができています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、は利用者個人に必要な性が生じた場合は制度活用に向けて関係機関へ連絡・相談をしている。また、任意で加入している研究会などで 制度を学ぶ機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階でホームの特色を含め契約内容の説明を十分行い、また契約内容の変更の際には事前の説明会等を行なって理解・納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方の面会時に意見・要望を直接伺ったり 意見箱を設置し、意見を頂戴している	利用者に意見を言ってもらう機会を増やそうとしていて、メニュー作成への参画は定例となっている。また、各ユニット毎に色を替えたフェルトで手作りした名札を職員はエプロンの上につけていて、利用者にも家族にも呼んでもらえるよう工夫している。隔月で「松葉の家だより」を家族に届けていて、日頃の様子を書	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議が定期的で開催され、職員の意見や提案を聞く機会になっている。また、アンケートなども行い職員の思いを把握するよう努めている	職員アンケートを無記名・記述なし(筆跡で特定しないように)でとり、職員が日頃言えない意見や気持ちを確認している。一職員が直接法人本部へ進言できる仕組みも整っているが、実際使う人はなく管理者に言ってくることが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人評価・施設評価システムがあり、個人及び施設の努力や実績が評価され、賞与に反映される		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修機会を設けたり、研修補助規程を設け、各種の研修への参加を奨励している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問をする機会がある(同グループ) またグループ全体で開催される忘年際は事業所を越えた交流が図られている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談、思いの傾聴、アセスメントシートを活用しサービス導入に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時には家族の不安や思いに傾聴し 今後は一緒に本人を支えていくことを伝え 安心を与えるよう関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の主訴を大事にし、ニーズを決定している 今までの苦労を十分理解してあげられるよう接している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、共に生活している利用者同士が支えあう関係を作るよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方を巻き込みながら本人を支援していく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が生活してきた地域のお祭りや先祖の墓参り等に同行したり、若い頃の職業に関係のある場所にドライブにいたりしている	高齢に伴い在宅時からの馴染みは年々減っているが、1、2号館はデイサービスの利用者と日頃から行き来がある。3号館は全体での取り組みができにくくなっていて、船乗りだった人とは海を見に行くなど個別支援が主になっている。新聞を購読したり、編み物をするなど在宅時からの習慣を続けている人もい	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の下膳や洗濯物の収納等お互い手伝っている姿が見受けられたり、困っている利用者を見かけたりすると職員を呼んでくれたり・・・そんな光景は大事にしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族に、困っているケースの相談があったりする場合があり、一緒に方法を考えたりする		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望、訴えには必ず傾聴する日頃の何気ない会話の中に本人の意向を聞き逃さないように勤めている	「自己決定の支援」という理念を念頭においていて、起床時間、就寝時間も決めてなく、それぞれの生活習慣と選択を尊重している。また、この職員なら入浴するという利用者もいて、希望に添えるよう工夫している。また、介護経過には発語を記録する欄を設け、利用者の何気ない言葉を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報等で生活歴を把握、普段の会話からも本人の生活歴を聞かせていただく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の希望を把握し、またできること、できないことを見極めるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向の確認は日頃の喧嘩から察することが多く、家族の意向の確認は面会時に確認する事が多い ケアに当たる職員は随時話し合いの場を持ち介護計画に活かしている	カンファレンスは全職員でし、モニタリングシートへの反映及びプラン作成は各ユニットの計画作成担当者がおこなっている。作成後はケアマネージャー(管理者兼務)が見直しもしている。職員がプランの実践を日々振り返ることができるよう、介護記録は評価機能も含まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護経過、申し送りにおいて職員全員で共有し、インシデント報告も活用し介護計画に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場その場のニーズに対応するよう努めているが、柔軟な対応・サービスの多機能化という観点では十分ではない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店等にでかけ買い物を楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクター契約を結ぶ、内科・外科・歯科には職員が受診支援をし、本人や家族の不安や要望を主治医に伝え適切な治療が行なわれている。受診結果は報告をしている希望の病院への通院も自由としている	「名を際いて事業所の協力医に変更して、職員が受診支援をしている。概ね月4回看護師の来訪もあり、医療連携も進めている。医療情報は、「介護経過(個人ファイル)」に記載し、情報の共有化に努めている。また、救急隊が求める情報を一つにまとめたシートも備えていて、有	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や症状の変化を見逃さないよう注意を払い看護士に相談をかけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの情報を提供し、入院中には治療の進行具合などを把握し退院の準備をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどう支援するかを家族・主治医と共に話し合いを行うホームのできることを説明し、最終的には家族に判断をしてもらう	医療に関しては隣接行為しか許されていない福祉事業所にあつて不安な点もあり、訪問看護や併設のデイサービスの看護師の助けを借りて、勉強会を開催している。家族、医療の協力が得られれば看取りには取り組みたいと考えている。	これまでの勉強会を礎にさらに職員教育や書面整備を進めることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される救急処置法の講義に参加したり、応急処置法に関しては看護師の教えを仰いだりし、実践に役立てるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練実施日には地域住民の協力を得、避難誘導訓練を行なっている。また事業所の訓練は月一回行い、職員全員が対応に慣れるよう取り組んでいる。	地域の第一次避難所となっていて、地域の防災訓練では住民の避難を受入れている。また、車椅子の利用者を屋上にあげることなどを手伝ってもらい、訓練において初めて協働関係を築くことができた。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩とし敬うにふさわしい言葉かけ、言葉遣いを職員一人ひとり考えている	呼び方は「～さん」で統一している。また、居室への出入りには必ず利用者に一言声を掛けて許可を得るようにしている。ほぼ全員の職員が利用者を敬ったやりとりができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自己決定の支援」を理念に掲げ、一人ひとりの生活が自分で判断できるよう配慮をしている 自己決定が困難な方にも希望を引き出すよう注意を払っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務や都合を優先することのないよう 手を止めて利用者に対応している 「まってね」の言葉かけはタブーとしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアスタイルを本人がちゃんと伝えられ、その日に着る洋服はどれにするか・・・等支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望献立を聞いたり、食事の準備を一緒にし、食事に関心を持ってもらえるよう配慮をしている また一緒にテーブルで食事を楽しめるように努めている	食事は手作りであり彩りの配慮もあり、それぞれの皿に職員の想いがこもっているようだった。魚屋さんが届けてくれる際には利用者に受け取ってもらい、社会参加の機会を作っている。ホットプレートを使ったりして、参画型のおやつも提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし適量が摂取できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時後口腔ケアを支援している 能力に応じた対応をこころがけている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、その人毎の排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができる支援をしている	排泄意とは別かも知れないが、定期的にトイレに行くことが習慣となっている。尿意がなくても座ることで腹圧がかかりトイレでできる可能性があるため、今後も取り組んでいきたいと考えている。トイレの中には備品を極力置かないようにしていることも視認した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけ支援、定時にトイレに誘う等おこなっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的に本人に決めてもらっている ゆっくりと時間がとれるよう考慮する	シャワー浴はできるだけ避け、ゆっくり湯に浸かってもらうことを旨としている。日曜日以外は希望に応ずることができるが、安全面の確保から時間は午後のみとなっている。友人同士で入るのを楽しみにしている人たちもいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防ぐため基本的に日中の臥床はしないようにしている 夜間不眠の方には不安な気持ちを聞くなどしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報には目を通し、副作用等の知識を得ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活、楽しみ、こだわりを把握しその人毎に支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等には本人の行きたいときに行けるように支援をしている 入居前の馴染みの場所、行事にも出かけている	散歩のほかにも火曜日に食材の買い出しに行くことを決めていて、利用者も心待ちにしているという。外食も全員でできなくなってから途絶えていたが、今後は個別で取り組めるよう検討している。春の花見、秋の紅葉狩りのほか、思い立ってドライブに行くこともある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に対する理解ができにくく、しまい忘れによるトラブルを防ぐため職員が預かっている 買い物時の支払いも職員がおこなっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は自由にできている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けをしたり、季節の花を生けて楽しさを引き出している	季節の変化がわかる行事掲示があり、ソファも置かれ、過ごしやすい空間にしようとする姿勢が窺える。温湿度計もあり、換気も朝と掃除のときに行っている。生け花は散歩で採取したり、職員が家の庭からもってきたもので、生活を楽しむ習慣があることが受け止められた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂および居間にて仲良く話をされたりお互いの部屋を行き来する光景がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の部屋をそのまま再現できるよう家族と本人の希望の家具等を持ち込んでもらっている	家庭から馴染みのものを持ち込むほか、生活するなかで家族と相談し買い足していることも真新しい備品から覗えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室のドアには本人にわかるように表札を掲げたり、ユニット内には場所の表示がある		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の駆け込み寺になろう」を運営理念の一つに掲げ、自宅での介護に悩み、疲れている人たち相談場所や逃げ場所となれるように・・・という共通意識を職員はもっている	困難事例も断らず、先ずは受け入れることを方針としていて、職員にも「地域の駆け込み寺である」意識が浸透している。職員の定着率も高いためか、年を重ねて職員の想いは一つになっていると管理者は感じているという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会の行事や共同作業にも参加し、親交を深めている。また、ホームが開催する行事(夏祭りやボランティアによる発表会)には招待をし、一緒に楽しむ機会を設けている	事業所の夏祭りには総勢80名余の参加があり、親しみをもって関わってもらえていることが覗える。東日本大震災を受け、4階建てであることから「第一次避難所」として市役所を通して地域に提供している。地域の防災訓練では、弱者とともに安全を確保することを体験を通して学ぶという貴重な機会の舞台となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住人による生活ボランティアの受け入れを行っており、地域住民に認知症の理解や支援を得ている。また幼・小。中学校によるボランティアを受けいることで、子供たちにも認知症の高齢者と接する機会を提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での提案や指摘事項については職員全体に周知させ、サービスの向上のために活かしている(食事の内容や終末期についての意見など)	運営推進会議を介して地域の皆さんの習い事の発表会の場に活用してもらうこともあり、また地域清掃の日時を知るなど、地域情報を得て資源を活かすための場となっている。今後は家族の参加を増やしたいと考えていて、方策を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所の担当者にも出席をお願いし毎回ホームの実情や取り組みを、報告しまた、防災課等他の部署への連絡への橋渡しも担ってもらっている	運営推進会議には毎回参加してもらっていて、次回の案内も終了後の口頭でしているほど、安心感のある関係にある。地域ボランティアの皆さんに福祉事業所で求めていることについて講話をすることも市の依頼に応え、出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者ひとり、一人に於いての拘束とは何かを正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ユニットそのものについては、玄関の施錠の解除また事務所への出入りの自由など生活空間での拘束感の軽減を図っている	事業所としては生活空間における拘束感、閉塞感を排除することに取り組んでいる。拘束排除と安全性の狭間で管理者と職員の意見がぶつかることもあるが、「利用者の安心できる暮らし」が双方、想いの根幹にあるため、ケース毎に合意形成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず項目として挙げられ、職員は常に意識し、虐待の防止は徹底している。事業所内で虐待が起きた場合には法人の関係部署への通報および取り調べのシステムができています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、は利用者個人に必要ほが至した場合は制度活用に向けて関係機関へ連絡合っている また、任意で加入している研究会などで制度を学ぶ機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階でホームの特色を含め契約内容の説明を十分行い、また契約内容の変更の際には事前の説明会等を行なって理解・納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの要望を伺ったり職員に直接言いにくいことも意見箱を設置することで意見や要望を表せる機会を設けている	利用者に意見を言ってもらう機会を増やそうとしていて、メニュー作成への参画は定例となっている。また、各ユニット毎に色を替えたフェルトで手作りした名札を職員はエプロンの上につけていて、利用者にも家族にも呼んでもらえるよう工夫している。隔月で「松葉の家だより」を家族に届けていて、日頃の様子を書面でも伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議が定期的開催され、職員の意見や提案を聞く機会になっている。また、アンケートなども行い職員の思いを把握するよう努めている	職員アンケートを無記名・記述なし(筆跡で特定しないように)でとり、職員が日頃言えない意見や気持ちを確認している。一職員が直接法人本部へ進言できる仕組みも整っているが、実際使う人はなく管理者に言うことが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人評価・施設評価システムがあり、個人及び施設の努力や実績が評価され、賞与に反映される		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修機会を設けたり、研修補助規程を設け、各種の研修への参加を奨励している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年一回行なわれる院内学会では、各事業所の取り組みやその成果などを発表し合いサービスの向上に役立てている。 またグループ全体で開催される忘年際では事業所を越えた交流が図られている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の気持ちを聞いたり日々の生活の中でも本人の気持ちを察するよう注意を払っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族の不安や思いを聞いたりまた面会時等にもその都度希望を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用の導入については今後検討したい 1階のデイサービスには出かけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される介護・々を目指し生活の主体は理用しゃであることをいつも頭に置いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にも双方から支援していきたいとの話をさせていただいている 折にふれ相談をかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居当初は馴染みの関係者の来設があるが しだいに遠ざかっている	高齢に伴い在宅時からの馴染みは年々減っているが、1、2号館はデイサービスの利用者と日頃から行き来がある。3号館は全体での取り組みができにくくなっていて、船乗りだった人とは海を見に行くなど個別支援が主になっている。新聞を購読したり、編み物をするなど在宅時からの習慣を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを仲介することで、思いやりを発揮する場面が見られている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族に納涼祭や行事の通知を送ることで立ち寄ってくれるケースがある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の独り言、呟きは大切にし、思いを把握している 生活の意向を家族に代弁してもらうこともある	「自己決定の支援」という理念を念頭において、起床時間、就寝時間も決めてなく、それぞれの生活習慣と選択を尊重している。また、この職員なら入浴するという利用者もいて、希望に添えるよう工夫している。また、介護経過には発語を記録する欄を設け、利用者の何気ない言葉を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談の際には生活環境を把握し居宅のケアマネからもいろんな話を伺い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の症状を基本にできることとできないことを見極めずごし方に反映している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からの思いを聞き逃さず介護計画に反映している	カンファレンスは全職員でし、モニタリングシートへの反映及びプラン作成は各ユニットの計画作成担当者がおこなっている。作成後はケアマネージャー(管理者兼務)が見直しもしている。職員がプランの実践を日々振り返ることができるよう、介護記録は評価機能も含まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりについての日々の様子については 介護記録・かご経過・申し送りノートに記し職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化については今後の課題として取り組みたい		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店、公民館、授産所にてかけ、社会の一員としての暮らしを支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとなっている内科医・歯科外科への受診を支援している	「名を除いて事業所の協働医に変更していて、職員が受診支援をしている。概ね月4回看護師の来訪もあり、医療連携も進めている。医療情報は、「介護経過(個人ファイル)」に記載し、情報の共有化に努めている。また、救急隊が求める情報を一つにまとめたシートも備えていて、有事にも備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時には主治医に的確に情報を伝え、相談をしたり来設する看護師に心配なことを相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し日頃の様子を病院側に報告をし入院中には治療経過を確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・職員・主治医と方針を検討している	医療に関しては隣接行為しか許されていない福祉事業所にあつて不安な点もあり、訪問看護や併設のデイサービスの看護師の助けを借りて、勉強会を開催している。家族、医療の協力が得られれば看取りには取り組みたいと考えている。	これまでの勉強会を礎にさらに職員教育や書面整備を進めることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される救急処置法の講義に参加したり、応急処置法に関しては看護師の教えを仰いだりし、実践に役立てるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練実施日には地域住民の協力を得、避難誘導訓練を行なっている。また事業所の訓練は月一回行い、職員全員が対応に慣れるよう取り組んでいる。	地域の第一次避難所となっていて、地域の防災訓練では住民の避難を受入れている。また、車椅子の利用者を屋上にあげることなどを手伝ってもらい、訓練において初めて協働関係を築くことができた。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や性格を把握し、その人その人に合った対応を心がけている 言葉使いもその方にあった言葉を選んでいるが、馴染みの関係が構築できていくと少し言葉が雑になってしまうことがある	呼び方は「～さん」で統一している。また、居室への出入りには必ず利用者に一言声を掛けて許可を得るようにしている。ほぼ全員の職員が利用者を敬ったやりとりができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望、また不安の訴えにはしっかりと向き合って傾聴し、そのうえで自己決定を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体は利用者であることを頭にいれ職員の都合であってはならないことを意識するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の来設があったり、お化粧の手伝いをしたり・・・女性として輝くよう支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりに参加できるよう誘導したり、食事の支度に誘ったりして食事に関心を持ってもらえるよう支援している	長事は手作りや彩りの配慮もあり、それぞれの皿に職員の想いがこもっているようだった。魚屋さんが届けてくれる際には利用者に受け取ってもらい、社会参加の機会を作っている。ホットプレートを使ったりして、参画型のおやつも提供している。また、餡子やきなこを手際よく添え、生き生きとした表情で餅を丸める利用者の様子があ	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥・刻み食・ミキサー食・とろみでの対応も可能で、できる限り経口摂取ができるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後行ってもらっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導は個々の排泄感覚を尊重し、随時行っている できる限りトイレでの排泄ができるように取り組んでいる	排泄意とは別かも知れないが、定期的にトイレに行くことが習慣となっている。尿意がなくても座ることで腹圧がかかりトイレでできる可能性があるため、今後も取り組んでいきたいと考えている。トイレの中には備品を極力置かないようにしていることも視認した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による体調変化等は主治医から説明を受けているためみきわめをしっかりと心がけている 水分摂取量には気を配っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除き男女が一日おきに入浴しているが、本人の希望で毎日入浴している方もいる	シャワー浴はできるだけ避け、ゆっくり湯に浸かってもらうことを旨としている。日曜日以外は希望に応ずることができるが、安全面の確保から時間は午後のみとなっている。友人同士で入るのを楽しみにしている人たちもいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッド使用、布団使用の選択は自由で、臥床時間も自由にしていただいている 日中はソファで横になる方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を本に薬剤師に聞いたりすることでその方が使用している薬を把握するように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物・散歩に出かけたり、デイサービスでカラオケに興じたり、新聞・雑誌を読んだり 就寝前には養命酒を飲んだり・・・色々		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物にでかける また桜時期のお花見・お祭り見物・初詣等季節を感じられるよう支援をしている	散歩のほかにも火曜日に食材の買い出しに行くことを決めていて、利用者も心待ちにしているという。外食も全員でできなくなってから途絶えていたが、今後は個別で取り組めるよう検討している。春の花見、秋の紅葉狩りのほか、思い立ってドライブに行くこともある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し買い物し支払いをする・・ できる方には支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話はフリーに使用でき、家族に連絡したりまた、年賀状を送ったりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	蛍光灯点灯を工夫して刺激を軽減したり空間を季節感のある飾りつけをしている	季節の変化がわかる行事掲示があり、ソファも置かれ、過ごしやすい空間にしようとする姿勢が視える。温湿度計もあり、換気も朝と掃除のときに行っている。生け花は散歩で採取したり、職員が家の庭からもってきたもので、生活を楽しむ習慣があることが受け止められた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの椅子や居間にはソファが設置してあり気の合った同士、雑談ができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持込は自由で、本人や家族が考え部屋作りをしている	家庭から馴染みのものを持ち込むほか、生活するなかで家族と相談し買い足していることも真新しい備品から視えた。また、自立での歩行が難しくなった利用者が、居室のドアを開け共用空間でおやつづくりをする仲間を眺めていて、プライベート空間にいても仲間と一緒にいたい気持ちが伝わってきた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内の色々な場所に案内を掲げている(トイレ、浴室等)		